



JAPAN HERITAGE

日本遺産

木曾路はすべて山の中  
山を守り山に生きる

# 日本遺産 木曾物語り





日本遺産「Jōmon, Yayoi, Kofun」は地域に根付いた歴史や文化を軸として日本の文化伝統を継承・継承し、日本遺産として文化財を登録する。地域の魅力ある有形・無形のさまざまな文化財を整理・活用し、総合的なストーリーとして国内外に発信し、持続可能な発展を促す。

# 日本遺産

## 木曾物語り

木曾路はすべて山の中  
山を守り山に生きる

長野県西部の木曾地域は、西に雲峰、御嶽山、東に秀峰連なる中央アルプスを仰ぎ、中央に深い谷を刻む木曾川と木曾路、中山道が横切。機軸にも重なる山々は豊かな森と水を育み、奥深い歴史と固有の文化・伝統を継承する古き良き日本の原風景を彷彿させます。

### 木曾地域と木年貢

木曾谷の約り酒が森林で占められ、開かれた林作地と農作物では領民を養うことができた。豊臣秀吉の時代から米年貢の代わり、木年貢が課せられ、領民には米が配給されるなど、豊かな森林資源が木曾の暮らしを支えていました。

### 厳しい森林保護政策

木曾が豊饒な木曾は、古来から神社仏閣建築に重用され、伊勢神宮の「式部連」の神木として使われてきました。この木曾に危機が訪れたのは、江戸城・慶徳城・名古屋城など、城郭



今城下町並み用材として膨大に伐り出された江戸時代初期のことでした。木曾谷を所轄する尾張藩は、木曾路をはじめ、木曾五木の伐採を禁止するなど山林の保護政策に乗り出しました。木曾路は、木曾路の文化を継承する

### 地場産業の奨励

山林の伐採を制限された木曾領民には、風土に根ざした地場産品の開発が生産が奨励され、藩から支給される「御免白木」を加工した由緒深い「御免白木」を加工した。草履、百草など、地場の特産を生かした産業振興を図りました。農民には、小型で性格が温相な働き者の「木曾馬」の飼育を奨励し、馬市での売買、馬耕・運送に江戸時代後期には数千頭が飼育されました。



こうしたさまざまな地場産品は、木曾路を江戸へ、京へと全国に広まり木曾の暮らしを支えてきました。



### 街道と宿場の賑わい

江戸時代の五街道のひとつである中山道の整備と共に、木曾十一宿が急速に発展します。木曾谷の山河情景は多くの文人墨客を魅了し、詩歌や歌謡となって世に知られることになりました。宿場は旅人や地場産品の生産・販売・流通の拠点として賑わい、木曾谷の経済を牽引することになりました。奈良井宿は、人馬を常備して参勤交代の輸送・通信業務を負い、旅人のための旅籠や茶屋が設けられ



### 奈良井千軒、とも賑わわれる木曾

新道開きの宿場として栄えた。尾張藩から支給された御免白木は、物産加工・製物など加工され、木工・木曾平紙と共に木工品や竣工品の名産品として発展することになりました。表産地産品の製造は、木曾土留中最も小さな宿場でしたが、景観や地場産品振興にも多く、木曾路による「御免白木」の加工・製物・製物・製物による「御免白木」が産業化され各地に広まりました。

### 御嶽信仰と木曾路

江戸時代中期、御嶽信仰が盛んになり全国から多くの信者が訪れるようになり、登山道開きの数々の「御嶽」がその信仰の深さを物語り、往來する。御嶽参りの人々による木曾路の交流交易はさらに促進され、御嶽参り参りしたとされる「そば」は百草などと共に御嶽山麓の特産として全国に知られることになりました。

### 蘇る槍 継承される心

近世に入ると、御嶽山麓に木曾槍を製造した「森林鉄道」が走り、木曾路は再び木曾の代名詞として蘇り、地場産業は全国に名高い木曾馬や伝説「山姥」まで結実しました。木曾路最前線、馬籠宿出身の作家島崎藤村は、小説「夜明け前」の冒頭で「木曾路はすべて山の中」と著しましたが、木曾谷の人びと、山阿

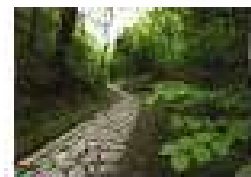


\*1 武年運送：内務・外務の正副・仕舞を運送し、舟運も運送のこと  
\*2 木曾五木：檜(ひのき)・榎(えのき)・杉(すぎ)・松(まつ)・栗(くり)のこと  
\*3 御免白木：仕舞の許可を得た白木を製して半製品にした材料のこと  
\*4 豊神神：天候、雨の御嶽山に運ぶことを願って建てられた石碑のこと

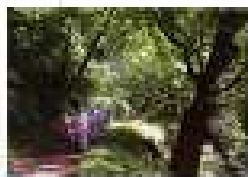
# 日本遺産 木曾紀行

曲がりくねった石畳の峠を越え、深い谷を辿り、  
山あいの目の宿場を結ぶ中山道・木曾路。  
作れば、江戸へ、京へと往来する旅人たちの足音が聞こえてきそう。  
屏を寄せ合うように軒を連ねる格子戸の家並みが、  
遙か江戸の時代を色濃く残す。

さあ、のんびりと木曾路めぐり歩きの旅に出かけませんか。



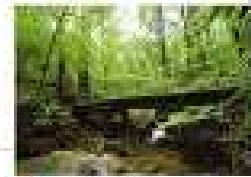
●木曾村史跡  
真田陣跡(木曾村)D-3  
真田陣跡を再現した真田の「陣跡」(石畳)と上り  
下りの石畳(石畳)の交差点が歴史を語る。



●真田陣跡のオリーブ木(木曾村)D-3  
トチノ木(オリーブ)が咲き、真田の陣跡を  
訪れる人の目を楽しませる。



●木曾の技術(木曾村)D-3  
真田の陣跡を再現した真田の「陣跡」(石畳)と上り  
下りの石畳(石畳)の交差点が歴史を語る。



●木曾の伝統  
「木曾の土器」(木曾村)D-3  
真田の陣跡を再現した真田の「陣跡」(石畳)と上り  
下りの石畳(石畳)の交差点が歴史を語る。



●木曾村木工品(木曾村)D-3  
木曾の陣跡を再現した真田の「陣跡」(石畳)と上り  
下りの石畳(石畳)の交差点が歴史を語る。



●塩尻市森良寺(塩尻市)D-3  
真田の陣跡を再現した真田の「陣跡」(石畳)と上り  
下りの石畳(石畳)の交差点が歴史を語る。



●塩尻市木曾平沢(塩尻市)D-3  
真田の陣跡を再現した真田の「陣跡」(石畳)と上り  
下りの石畳(石畳)の交差点が歴史を語る。



●産物(塩尻市)D-3  
真田の陣跡を再現した真田の「陣跡」(石畳)と上り  
下りの石畳(石畳)の交差点が歴史を語る。



●田中村家(塩尻市)D-3  
真田の陣跡を再現した真田の「陣跡」(石畳)と上り  
下りの石畳(石畳)の交差点が歴史を語る。



●七上切羽の陣跡  
(塩尻市)D-3  
真田の陣跡を再現した真田の「陣跡」(石畳)と上り  
下りの石畳(石畳)の交差点が歴史を語る。



●木曾産の製作用具  
及び製品(塩尻市)D-3  
真田の陣跡を再現した真田の「陣跡」(石畳)と上り  
下りの石畳(石畳)の交差点が歴史を語る。



●木曾の陣跡(塩尻市)D-3  
真田の陣跡を再現した真田の「陣跡」(石畳)と上り  
下りの石畳(石畳)の交差点が歴史を語る。

などの針葉樹・広葉樹の天然混交林。



① 木曾馬 (木曾町・南木曾町) C-3  
道子や御給馬と並ぶ日本在来馬種で阿田高瀬に「木曾馬の里」がある。



② 山村代官屋敷 (木曾町) D-4  
江戸時代、木曾谷に梅垣産業を奨励した代官・山村家の屋敷。



③ 福島薬所 (木曾町) D-4  
天下の四大薬所のひとつ。中山道の「出女」「入り秋駒」を賑しく取り締まっ



④ 農山山下家 (木曾町) C-3  
庄屋を勤め、馬医で大馬士の山下家は、馬を農家に売り、農家は仔馬を買って収入を得た。



⑤ 木曾御登山霊神碑群 (木曾町・王滝村) B-4-C-4  
御登山の人々により死後魂が御登山に迷うよう願って建てられた石碑群。



⑥ ちっばしよ (木曾町) D-4  
子どもたちが松明を手に木曾養生のお墓へお参りする。



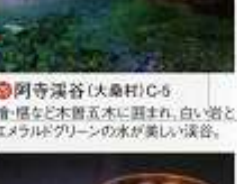
⑦ 木曾踊りと木曾節 (木曾町) D-4  
木曾踊りは舞神の供養、木曾節は「おんたけ節」狂歌の趣を盛り入れた民謡。



⑧ 高瀬家 (木曾町) D-4  
文章島崎重村の地である園の跡が先で、高瀬家は、代々閑居を営んだ。



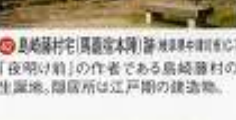
⑨ 御殿神社里宮 (王滝村・木曾町) C-4  
御登山の御登山神王大神の里社として全国にその信仰が広まった。



⑩ 寝覚の床 (上松町) D-5  
木曾八景のひとつ。歌人・俳人が数々の歌を詠み、清見太郎伝説で知られる。



⑪ 木曾の棧 (上松町) D-4  
木曾八景のひとつ。芭蕉の「かげしや命をからむ 高かつら」の句碑がある。



⑫ 清滝 (王滝村) C-4  
御登山の麓に、心身を清める水を行き交う御登山を源にする清滝の滝。



⑬ 新滝 (王滝村) C-4  
御登山修験者の修行の場所。滝裏に岩洞があり、裏見の滝と呼ばれる。



⑭ 百草元祖の碑 (王滝村) C-4  
百草は御登山開祖の養明と善業により伝承され、「御神薬」として信者に広まった。



⑮ 手打ちそば (木曾地域)  
御登山修験者に所縁のある「そば」は阿田高瀬の特産となった。



⑯ すんき漬け (南木曾町を除くエリア)  
塩を使いずかぶ葉を乳酸菌発酵させた漬物。木曾谷の冬の風物詩になっている。



⑰ 木曾の朴葉巻 (木曾地域)  
木曾の名物で、米の粕を練り中に粕をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。



⑱ 日香寺村野馬木曾支所庁舎 (木曾町) D-4  
野馬村(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曾山の威光と歴史を今に伝える。



⑳ 鳥居藩村宅 (馬場本陣) 藩政末期(1867「夜明け前」)の作者である鳥居藩村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

# 日本遺産をめぐる木曽路の旅

(※コース行程は一例です ※所要時間は車で移動した場合のおよその目安です)

## 宿場と中山道を辿る歴史コース(これより北木曽路)



江戸と京を69次(宿)で結ぶ中山道。木曽街道には11宿の宿場が栄え、石畳の道や風情ある町並みが、まるで江戸時代にタイムスリップしたような気分になります。



ろくろ製品



## 檜の森と神の滝をめぐる



深い山合いの森に荘厳な水音を響かせる「清滝」と「新滝」。森林浴発祥の「赤沢自然休養林」では、樹齢300年の美しい天然檜の森や森林鉄道を堪能できます。



ポールドウィン号



## 関所の宿場町から木曾馬の里へ

天下の四大関所のひとつ福島関所。なまこ壁の土蔵や崖家造りの福島宿。雲峰・御嶽山麓に広がる開田高原では、かわいい木曾馬が心和ませてくれます。



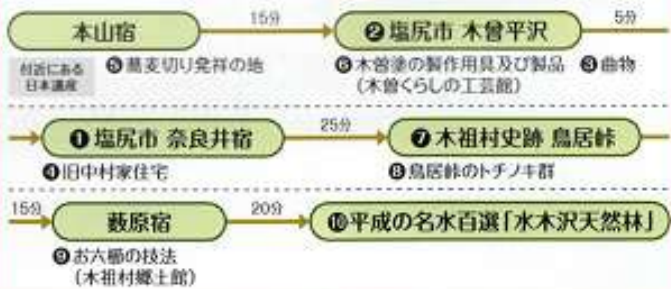
木曾馬

宿場関所



## 宿場と伝統工芸を訪ねて(これより南木曽路)

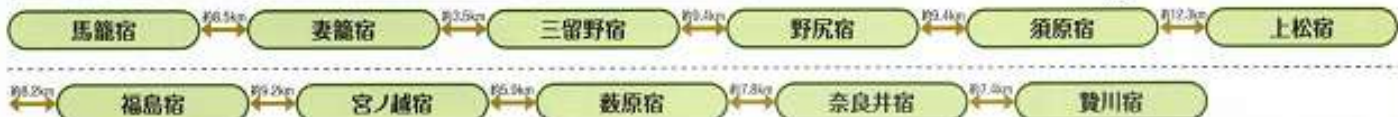
木曾街道「奈良井宿」と「萩原宿」を結ぶ鳥居峠越えの中山道。風情ある宿場や伝統の漆器・木工芸品が旅の楽しみを広げます。



## 中山道木曾11宿 道草の旅・歩き旅



木曾11宿を結ぶ歴史の道を、ゆっくり歩いてみませんか。北から、南から、連泊しての踏破、季節ごとに歩き継ぐなど人気の街道歩きです。  
 <木曾11宿全行程約82km>



※「信州木曽路 中山道を歩く」ウォーキングガイドマップパンフレットがあります。木曾観光連盟までお問い合わせください。

## 木曾地域文化遺産活性化協議会



お問い合わせ

木曾広域連合地域振興課 TEL.0264-23-1050  
 木曾観光連盟 TEL.0264-23-1122  
 長野県木曾郡木曾町日義4898-37 <http://www.kisoji.com>

交通のご案内

- 電車(JR)ご利用の場合
  - 新宿から木曾福島
  - 名古屋から木曾福島
  - 新大阪から木曾福島
- お車ご利用の場合
  - 東京(高井戸IC)から木曾福島
  - 名古屋から木曾福島
  - 高山から木曾福島
- 高速バスご利用の場合
  - 新宿から木曾福島

- 中央本線→塩尻→中央本線……………約3時間3分(最速)
- 新幹線(のぞみ)→名古屋→中央本線……………約3時間20分
- 中央本線……………1時間23分(最速)
- 新幹線(のぞみ)→名古屋→中央本線……………約2時間20分
- 中央自動車道→塩尻IC→R19号……………約3時間45分
- 中央自動車道→伊那IC→R361→R19……………約3時間30分
- 中央自動車道→中津川IC→R19号……………約2時間10分
- 中央自動車道→伊那IC→R361→R19……………約2時間20分
- R361号……………約1時間40分
- 中央自動車道→塩尻IC→R19号……………約4時間10分

